

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目のⅡやⅢ等）から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

| | 項目数 |
|--------------------------------------|------------|
| I. 理念に基づく運営 | 22 |
| 1. 理念の共有 | 3 |
| 2. 地域との支えあい | 3 |
| 3. 理念を実践するための制度の理解と活用 | 5 |
| 4. 理念を実践するための体制 | 7 |
| 5. 人材の育成と支援 | 4 |
| II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | 10 |
| 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応 | 4 |
| 2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援 | 6 |
| III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | 17 |
| 1. 一人ひとりの把握 | 3 |
| 2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し | 3 |
| 3. 多機能性を活かした柔軟な支援 | 1 |
| 4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働 | 10 |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | 38 |
| 1. その人らしい暮らしの支援 | 30 |
| 2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり | 8 |
| V. サービスの成果に関する項目 | 13 |
| 合計 | 100 |

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

| | |
|-----------------|---------------------|
| 事業所名 | 医療法人わかば会 グループホームわかば |
| (ユニット名) | (は) |
| 所在地 (県・市町村名) | 長崎県佐世保市 |
| 記入者名 (管理者) | 松永 妙子 |
| 記入日 | 平成19年10月7日 |

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

| 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|--------------------|---|---|----------------------------------|
| I. 理念に基づく運営 | | | |
| 1. 理念と共有 | | | |
| 1 | <p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p> | <p>住み慣れた地域で安心した暮らしをして頂く為、理念の柱に「安心と尊厳のある生活」を挙げている。</p> | |
| 2 | <p>○理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p> | <p>理念を額に入れ常に目に付く所に下げている。個々に名札の裏に理念を書いたカードを入れ常に身に付けている。</p> | |
| 3 | <p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる</p> | <p>理念を額に入れ玄関入口に飾っている。わかば新聞を発行し町内の人にも手に入りやすいように各所に置いてある。</p> | |
| 2. 地域との支えあい | | | |
| 4 | <p>○隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p> | <p>俵町商店街に買物に行き挨拶を交わし、夏祭りや冬のぜんざい会等イベントに参加している。</p> | |
| 5 | <p>○地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p> | <p>利用者様個人のADLに合わせ上記イベント等に参加している。</p> | |

グループホームわかば ユニットは

| 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|--|---|------|---|
| <p>6</p> <p>○事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p> | <p>病院主催の健康教室が開催されておりGH職員も参加している。</p> | | |
| <p>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</p> | | | |
| <p>7</p> <p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p> | | ○ | <p>前回の外部評価で指摘を受けたケアプランに沿った記録がまだ浸透していない為取り組んでいきたい。</p> |
| <p>8</p> <p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p> | <p>管理者、民生委員、地域抱活支援センター、家族で合同会議第一回を行った。</p> | ○ | <p>今後も定期的に行う。</p> |
| <p>9</p> <p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p> | <p>病院としての認知はあるが、GHとしてはうすい。</p> | | |
| <p>10</p> <p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p> | <p>任意後見制度を活用されてらっしゃる入居者様がいらっしゃるが、内容全てを理解出来てない研修などには、なるべく参加する様にしている。</p> | | |
| <p>11</p> <p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p> | <p>病院全体で顧客満足に関する勉強会を週一回行っている。高齢者虐待防止関連法についての勉強会は行っていない。</p> | | |

グループホームわかば ユニットは

| 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|-----------------|---|---|-----------------------------------|
| 4. 理念を実践するための体制 | | | |
| 12 | <p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p> | 入所の際に管理者がきちんと説明している。 | |
| 13 | <p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p> | 廊下にご意見箱を設置している。 | ○ クレーム、意見を病院全体に掲示して改善に取り組もうとしている。 |
| 14 | <p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p> | 家族の面会時に、その都度説明している。行事の写真を貼り出したり、アルバムを作成したりしている。 | |
| 15 | <p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p> | 廊下にご意見箱を設置している為、苦情等があれば即座に対応している。 | |
| 16 | <p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p> | 月に一度、職員会議をして、運営者に報告し反映させている。但し、不満や苦情は運営者に言いづらい面もある。 | |
| 17 | <p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p> | 柔軟な対応は出来ていない。 | |
| 18 | <p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p> | 最小限の異動で済むよう配慮している。 | |

グループホームわかば ユニットは

| 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|------------------------------|---|---|----------------------------------|
| 5. 人材の育成と支援 | | | |
| 19 | ○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 管理者や職員を育成する為の研修を受ける機会を確保している。 | |
| 20 | ○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 同業者との交流する機会は取れない。 | ○ 勉強会等を通して他の同業者と意見交換が出来れば良いと思う。 |
| 21 | ○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる | 個別に相談に応じ大きなストレスにならない内に解決策を共に考えるようにしている。 | |
| 22 | ○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている | わかばごころ(理念)の理解の為全職員に対して共に学ぶ風土を育成している。 | |
| II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | |
| 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応 | | | |
| 23 | ○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている | 帰宅願望が強い方に対しては前向きに希望が叶うよう励まし説明している。 | |
| 24 | ○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている | 家族から生活歴を聞き、情報を把握するよう努めている。 | |

グループホームわかば ユニットの

| 項目 | | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|---------------------------|--|--|------|----------------------------------|
| 25 | ○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | 本人とご家族の希望に添うように精一杯努めている。ケアマネージャーと連携し、初期対応している。 | | |
| 26 | ○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している | 今までの生活でしてきた事を職員一人一人が理解出来るよう家族と話をしている。 | | |
| 2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援 | | | | |
| 27 | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている | 一人一人の今までの生活を尊重し、ここでの生活にも生かせるよう努めている。また、生活の技などを教えてもらうこともある。 | | |
| 28 | ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている | 面会に来られた時には、近況報告、問題点があれば家族から今までの生活ぶりなど聞き、一緒になって検討・支援している。 | | |
| 29 | ○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している | 入所時に生活歴・家族構成など差し障りのない範囲でなるべく詳しく聴き、本人と家族の関係がより良い関係が保てるよう心がけている。 | | |
| 30 | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | 昔なじみの美容院に連れて行ったり、墓参りに行ったり、なじみの人の面会も出来る環境作りをしている。 | | |
| 31 | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている | 声かけをし、リビングに誘い、楽しい時間を作る。席替えなど工夫しながら、トラブルが起きないようにしている。職員が仲介に入り話題を提供する。 | | |

グループホームわかば ユニットは

| | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|------------------------------------|---|---|------|----------------------------------|
| 32 | ○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている | 退所され病棟へ移られたり、レジデンスに入所されても外来やリハビリなどで顔を見かけた時などは、お互い声を掛け合い、いい関係を保っている。 | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | |
| 1. 一人ひとりの把握 | | | | |
| 33 | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 入所時、今までの生活歴やGHでどのような生活をしたいか希望を聞き、又日々の生活の中で希望・意向が出た時はそれに沿えるようにしている。 | | |
| 34 | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | 上記と同じく、今までの生活歴を把握できるよう情報を集め、利用者情報書・生活歴を作成している。 | | |
| 35 | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている | 一日3回バイタル測定し、一日の生活リズムを記事に残している。又申し送りノートに特記事項・連絡事項などを書き込んでいる。 | | |
| 2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し | | | | |
| 36 | ○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している | スタッフ全員が月一回の会議に参加し、どのような課題があるか、又どういったサービスをしたらいいかの、活発な意見交換を行っている。 | | |
| 37 | ○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している | 3ヶ月評価や6ヶ月評価は勿論入院や退院後の状態の変化に合わせてプランの変更などを随時行っている。 | | |

グループホームわかば ユニットの

| 項目 | | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|------------------------------------|---|--|------|----------------------------------|
| 38 | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 職員の気づきや状態変化は記録に記載し、職員全員に情報共有を徹底している。個別記録を基に介護計画の見直し、評価を実施している。 | ○ | ケアプランに担当者の意見を取り入れていきたい。 |
| 3. 多機能性を活かした柔軟な支援 | | | | |
| 39 | ○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている | 昼夜逆転・不眠・転倒を繰り返される方の為毎日状態報告をし眠前薬の調整を行ってもらう事が出来た。又このGHは病院の中にある為定期的に利用しやすい。 | | |
| 4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働 | | | | |
| 40 | ○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している | 行事がある時には、ボランティアの参加がある。民生委員との話し合いの場を設けている。消防署による避難訓練を行っている。 | | |
| 41 | ○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている | 月一回の訪問美容を利用している。 | | |
| 42 | ○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している | 2ヶ月に1回、運営推進会議を行っている。 | | |
| 43 | ○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 病院内にあるGHの為24時間対応出来ている。 | | |

グループホームわかば ユニットは

| 項 目 | | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|-----|---|---|------|----------------------------------|
| 44 | ○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している | 不眠、暴力行為転倒を何回もされる利用者に対しては、医師に状態報告をしその都度薬の調節をしている。 | | |
| 45 | ○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている | 病院と併設している為、医師・看護師と24時間対応可能である。 | | |
| 46 | ○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している | 病院と併設している為、毎日の面会・様子観察もでき、情報交換もできる。 | | |
| 47 | ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している | 理事長が主治医である為、話し合いも早期に出来、ご家族とも変化がみられる度話し合い全員で方針を共有出来ている。 | | |
| 48 | ○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている | 本人や家族の意向を聞き、主治医、看護、介護職員との連携を図り、急変した場合すぐ対応できるように支援をしている。 | | |
| 49 | ○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている | ケア関係者で十分な話し合い・情報交換を行い、家族・職員共にダメージを最小限に努めている。 | | |

| 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|----------------------------------|--|--|----------------------------------|
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | |
| 1. その人らしい暮らしの支援 | | | |
| (1)一人ひとりの尊重 | | | |
| 50 | 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない | 利用者の誇りやプライバシーを損ねないよう対応している。 | |
| 51 | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている | 利用者の意思を尊重しながら支援を行っている。 | |
| 52 | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | その日の予定を伝え、一日三回のバイタル測定した上で利用者の気分や体調に合わせている。 | |
| (2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援 | | | |
| 53 | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている | 季節に合わせた服を選ぶ手伝いをしている。利用者の希望で近所の美容室へ行ったり来てもらったりしている。 | |
| 54 | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている | 義歯をされていない利用者には刻んだり食べやすいように工夫している。盛り付けの手伝い等してもらっている。 | |
| 55 | ○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している | 利用者のほとんどがコーヒーが好きなので毎日いれている。商店街が近い為好物を一緒に買いに行くこともできる。 | |

グループホームわかば ユニットは

| 項目 | | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|--------------------------------------|--|--|------|----------------------------------|
| 56 | ○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している | 利用者それぞれの間隔で誘導している。おむつ使用を減らす為、トイレ誘導・パット併用の工夫をしている。 | | |
| 57 | ○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している | リハビリ等で利用者の予定が決まっているのでどうしても入浴日も決まってしまう、できていない。 | | |
| 58 | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している | 昼寝のし過ぎで昼夜逆転にならないよう注意している。一人一人の体調に合わせて休息してもらっている。 | | |
| (3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援 | | | | |
| 59 | ○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている | 自分の仕事と思い、洗濯物たたみ・食事の配膳をされている。職員は感謝の気持ちを伝えることを忘れないようにしている。 | | |
| 60 | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | 個人で管理できている方は、買物に出た際自分で支払ってもらっている。 | | |
| 61 | ○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している | 買物の希望ある時や家族との外出等、体調みて希望に沿っている。 | | |
| 62 | ○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している | 花見やイベントがある時等、全員又は希望者で出掛けている。 | | |

グループホームわかば ユニットは

| 項目 | | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|------------------------|---|---|------|----------------------------------|
| 63 | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | 本人の希望により電話をかけている。 | ○ | 年賀状・暑中見舞い等楽しんで書いてもらいたい。 |
| 64 | ○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している | 訪問時間を定めることなくいつでも気兼ねなく訪問できている。 | | |
| (4) 安心と安全を支える支援 | | | | |
| 65 | ○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 問題点が発生した場合など、申し送り帳・ミーティング等で解決策を検討している。 | | |
| 66 | ○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる | GHの入り口はオートロックになっている為常に鍵が掛かるが、居室は常に鍵を掛けないでいる。 | | |
| 67 | ○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している | 日中は職員同士声を掛け合い見守りし、夜間は数時間毎に巡回行い24H利用者の安全に配慮している。 | | |
| 68 | ○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている | 管理している。 | | |
| 69 | ○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる | 防火訓練・救命講習を院内で実施している。火災チェックシートへ毎日チェック記入している。 | ○ | 勉強会等を行い、さらなる知識向上に努めたい。 |

グループホームわかば ユニットは

| 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|----------------------------|---|--|----------------------------------|
| 70 | <p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている</p> | <p>病院併設のGHの為、医療関係者との連携もよくとれている。</p> | |
| 71 | <p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p> | <p>病院全体で行う年二回の避難訓練に参加している。</p> | |
| 72 | <p>○リスク対応に関する家族等との話し合い</p> <p>一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている</p> | <p>リスクの高い利用者に関しては家族に説明を行い理解を得ている。</p> | |
| (5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援 | | | |
| 73 | <p>○体調変化の早期発見と対応</p> <p>一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている</p> | <p>一日3回のバイタル測定、様子観察に努め、異変ある場合は医師に報告している。</p> | |
| 74 | <p>○服薬支援</p> <p>職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p> | <p>副作用、用法については全て理解できていないが、処方箋を見て確認している。症状の変化ある時にはすぐ医師に報告するようにしている。</p> | |
| 75 | <p>○便秘の予防と対応</p> <p>職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる</p> | <p>排便状況を確認し、それに応じて便秘薬を調整している。</p> | |
| 76 | <p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている</p> | <p>毎食後口腔ケア実施。義歯については入れ歯洗浄剤使用。</p> | |

グループホームわかば ユニットは

| 項目 | | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|--------------------------------|---|--|------|--|
| 77 | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 食事量は毎日チェック表に記入し職員が情報を共有している。脱水予防の為に定期的な飲水の促しを行っている。又好みの飲み物を常備している。 | ○ | 定期的に管理栄養士による嗜好調査があり献立に取り入れられている。盛り付けや量、刻んで食べ易くするなどその方にあった提供をしている。 |
| 78 | ○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等) | 地域の感染症発生状況は随時勉強会等の資料の中に入れてあるので情報収集できている。ノロウイルス対策としては各部署にマニュアルが配布されペーパータオルを使用する等予防も徹底している。 | ○ | 毎年利用者・職員共にインフルエンザ予防接種を受けている。MRSA保菌者に対しては食器を別にし洗浄も別に行っており、感染予防に心掛けている。 |
| 79 | ○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている | 調理器具、台所水回りの清潔・衛生を保つよう職員で取り決めて実行している。 | ○ | 冷蔵庫や冷凍庫など食材の賞味期限が切れていないか点検を行っている。まな板や布巾等は漂白し清潔を保っている。 |
| 2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり | | | | |
| (1)居心地のよい環境づくり | | | | |
| 80 | ○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている | 入り口横に利用者の顔写真を貼り外部から来られた方に配慮している。玄関の中に椅子を置き荷物を置いたり座って靴を履いたりできるようにしている。 | ○ | エレベーターから玄関までが入り組んでいる為壁に貼り絵の案内や額等を飾り、壁だけの威圧的な空間にならないよう工夫している。 |
| 81 | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | テーブルに草花を飾ったり月ごとに季節に合った飾り付けをしたり、誕生会や催し物の写真を貼る等して、面会に来られた方にも中での生活が一目見て分かるように工夫している。 | ○ | 敬老会クリスマス会又ボランティアの催し物等がある時にはリビングのテーブルや椅子を片付け、他ユニット合同の憩いの場になっており皆様楽しみにされている。 |
| 82 | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | 腰掛けて座れる畳では洗濯物を広げきれいにたたまれている。二人掛け三人掛けのソファでは一日座って過ごされる方や足を伸ばして座ったり横になったりされている。又向かい合わせに置き輪になって風船バレーをすることもできる。 | ○ | テーブルを囲みチラシでゴミ箱作りをされたりしている。畳では三味線を弾かれ、披露される事あり楽しみにされている。 |

グループホームわかば ユニットの

| 項目 | | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|------------------------|---|--|------|---|
| 83 | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 三味線の先生をされていた方は今でも週一回は居室で知人・家族と一緒にお稽古をされている。家族の写真や若い頃の写真を飾られている方も多く安心して生活できるよう配慮している。 | ○ | 居室でTVを楽しまれる方は本人は気付いてない事が多く音量の調節をお願いしている。 |
| 84 | ○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている | トイレ・居室のPTイレは毎日掃除を行い、PTイレのある居室には消臭剤を置いたり尿失禁のある方には紙シートを敷き、すぐに交換できるようにしている。窓やドアの開閉により換気に心掛けている。 | ○ | 利用者だけでなく面会に来られた家族・知人の方にも不快な思いをさせないよう、いつも清潔を保ち環境作りに心掛けている。 |
| (2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり | | | | |
| 85 | ○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | 廊下の手すりにより歩行に不安がある方でも居室からトイレ・ホーム内を自由に行き来し自立した生活を送られている。 | ○ | シルバーカーで歩行されている方は見守りが必要な為車に鈴を付けてどこからでも聞こえ対応できるよう工夫している。利用者に合わせテーブルや椅子等の配置替えなどを行っている。 |
| 86 | ○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している | 認知症の為排便の確認が取れない方が多いのでトイレ内に張り紙をしスタッフまで知らせてもらうようにしている。 | ○ | テーブルに名前を書き自分の席が分かるようにしている。カレンダーに花丸を付け今日の日付がすぐ分かるようにしている。 |
| 87 | ○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている | リビングから窓越しにベランダを見る事ができ窓ガラスには貼り絵などで季節に花を添えている。 | ○ | 気候が良くなれば散歩やベランダでの外気浴を楽しみたい。 |

| V. サービスの成果に関する項目 | |
|---|---|
| 項目 | 最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。 |
| 88 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる | <input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者の |
| | <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいの |
| | <input checked="" type="radio"/> ③利用者の1/3くらいの |
| | <input type="radio"/> ④ほとんど掴んでいない |
| 89 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある | <input type="radio"/> ①毎日ある |
| | <input checked="" type="radio"/> ②数日に1回程度ある |
| | <input type="radio"/> ③たまにある |
| | <input type="radio"/> ④ほとんどない |
| 90 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている | <input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が |
| | <input checked="" type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが |
| | <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが |
| | <input type="radio"/> ④ほとんどいない |
| 91 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている | <input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が |
| | <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが |
| | <input checked="" type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが |
| | <input type="radio"/> ④ほとんどいない |
| 92 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている | <input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が |
| | <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが |
| | <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが |
| | <input checked="" type="radio"/> ④ほとんどいない |
| 93 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている | <input checked="" type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が |
| | <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが |
| | <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが |
| | <input type="radio"/> ④ほとんどいない |
| 94 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている | <input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が |
| | <input checked="" type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが |
| | <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが |
| | <input type="radio"/> ④ほとんどいない |
| 95 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています | <input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族と |
| | <input checked="" type="radio"/> ②家族の2/3くらいと |
| | <input type="radio"/> ③家族の1/3くらいと |
| | <input type="radio"/> ④ほとんどできていない |

グループホームわかば ユニットは

| 項 目 | | 最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。 | |
|-----|---|-----------------------|--------------|
| 96 | 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている | ○ | ①ほぼ毎日のように |
| | | | ②数日に1回程度 |
| | | | ③たまに |
| | | | ④ほとんどない |
| 97 | 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている | ○ | ①大いに増えている |
| | | | ②少しずつ増えている |
| | | | ③あまり増えていない |
| | | | ④全くいない |
| 98 | 職員は、生き活きと働けている | ○ | ①ほぼ全ての職員が |
| | | | ②職員の2/3くらいが |
| | | | ③職員の1/3くらいが |
| | | | ④ほとんどいない |
| 99 | 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う | ○ | ①ほぼ全ての利用者が |
| | | | ②利用者の2/3くらいが |
| | | | ③利用者の1/3くらいが |
| | | | ④ほとんどいない |
| 100 | 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う | ○ | ①ほぼ全ての家族等が |
| | | | ②家族等の2/3くらいが |
| | | | ③家族等の1/3くらいが |
| | | | ④ほとんどできていない |

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)